



44 月夜帰牧之図 木島桜谷

一幅

大正三年（一九一四）  
絹本墨画  
一二七・八×五二・一

本図は、若手日本画家を中心に結成された巽画会が主催した、大正三年（一九一四）第五回表装競技会の出品作であり、三等銅賞受賞さらに宮内省買い上げとなった。木島桜谷（一八七七〜一九三八）は、四条派の流れをくむ今尾景年に師事し、歴史画、風俗画、動物画と様々な画題を卓抜した画力で描き上げ、文展で受賞を重ねた。大正期以降、各美術団体の展覧会に意欲的に出品しており、本図もそのうちのひとつと言える。一日の畑仕事を終えた農夫や牧童が牧牛を連れて帰路をたどる姿を描く帰牧図は、古く中国から描かれてきた画題であり、本図もその系譜につらなるものといえる。しかしこの頃

の文展出品作でも流行した、縦型の画面をいかして背の高い木々を描き、その中に小さく人間を配する新鮮な構図が採用されている。元来、入念な写生に基づく描写に穏やかで叙情的な雰囲気を加味した動物画を得意とした桜谷であったが、本図では牛を点景として小さく描くのみである。本図で作者が主眼としたのは、おぼろげな月明かりの下ですべてのモチーフが曖昧模糊としたシルエットとなって暗がり沈む静謐な空間を、墨の濃淡とにじみで描出することであったと考えられる。大画面に入念に描き込んだ文展出品作とはまた一風異なる、桜谷の墨の巧みな扱いが認められる作品と言えよう。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生 — 作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 72

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan